

大会規則

1. 本大会は、2016年全日本軟式野球連盟公認野球規則を適用する。
2. 試合規定
 - ① 試合は7回戦、または、試合時間 1 時間30分とし、1時間30分経過以降は、次の回に入らない。
 - ② 後攻の攻撃中に1時間30分経過により試合終了が見込まれる場合は、球審の判断で試合終了する。
 - ③ 5回以降、得点(7点差)、および、日没降雨等によるコールドゲームの適用あり。但し、決勝戦は適用しない。
 - ④ **試合終了時、同点の場合の取り扱いは、次の(A)(B)の順による。**
 - A) 7回裏終了時又は1時間30分経過の場合は特別延長ルールを適用する。但し、2イニングを限度とする。
 - B) 「特別延長ルール」を適用し、なお同点の場合は、「抽選ルール」にて勝敗を決する。抽選カードは、各球場本部が用意する。
 - ⑤ 投手の投球制限は、1日7イニングまでとする。ただし、延長の直前のイニングを投げ切った投手に限り、1日最大9イニングまで投げることができる。
 - <基本> 1日2試合で、1日7イニングまで。
 - <特例> 特延に限り、1日2イニングまで認める。よって、1日最大9イニングとなる。
 - <範囲> 特延に投げられる投手は、最終回を投げ切って継続する投手または、その日に一度も登板していない投手
3. 投本間および塁間は、投本間 16.00m、塁間 23.00m、外野 フリーとする。
4. **野球規則によるアピール権者は、監督、該当者とする。**
5. ベンチには、選手(20名以内)、監督「30」、指導者「29」、指導者「28」の3名以内、代表者、マネージャー、スコアラー(選手以外で6名)が入れるものとする。
6. 各チームは、遅くとも試合開始予定時刻の30分前までに集合し、試合開始予定時刻の前でも試合ができるように準備すること。試合開始が早まる場合は球場責任者が連絡します。
7. 次の試合を行うチームの主将、監督は、試合開始予定時刻の30分前に審判員にメンバー表4部(球審、本部、対戦相手、自チーム)を提出する。但し、放送設備のある試合会場では、5部(球審、本部、放送室、対戦相手、自チーム)提出する。その際に、先攻後攻を決定する。(登録原簿と照合します。)
8. **試合前のシートノックは試合日の第1試合に実施し、後攻チームを先に、先攻後攻チーム各5分間行う。**

(各試合会場には、アップ球場を用意する予定です。)

 - ・シートノック時の補助員として、背番号28番・29番のコーチも認める。ただしノッカーにボールを渡す場合は、ヘルメット着用のこと。また、コーチは、捕手の代わりやブルペン捕手は、認めない。
9. 抽選番号若番のチームを一塁側ベンチとする。
10. ユニフォーム、防具、用具等について
 - ・ 選手、監督「30」、指導者「29」、指導者「28」は、全員が同色・同形、および、同意匠のユニフォームを着用する。靴は同一色のものでなければならない。主将は10番、選手は0番から27番をつけること。
 - ・ キャッチャーは、必ず公認マスク、ヘルメット、プロテクター、レガース、ファウルカップを着用すること。攻守交代時の代理キャッチャーも、プロテクター、レガース、捕手用ヘルメットを着用すること。
 - ・ 靴は少年用ゴム製スパイク、または、運動靴を使用すること。
 - ・ バットは公認(JSBB)マーク入りを使用する。表面に凸凹のあるもの、握りの部分にゴムがないもの、あるいは、緩んだものの使用は認めない。
 - ・ 打者、次打者、走者、ランナーコーチは、必ず「両耳覆いの付いたヘルメット」を着用すること。
 - ・ 素振りリング、鉄棒等の使用はもちろん、試合会場への持ち込みも禁止する。
11. 試合時間の開始は、選手のあいさつ終了時から起算する。
12. 試合開始、試合終了のあいさつ時は、ベンチ内の監督、指導者等も全員起立して、あいさつを行うこと。
13. 監督、指導者は試合中原則として、グラウンド内に入ってはならない。但し、監督に限っては選手の通告、アピールを行うとき、選手との打合せ時は除外する。
 - ・ 監督が投手の所へ行ける回数は、3回以内とする。なお、特別延長戦は、2イニングに1回行ける。また、監督が同一イニングに同一投手の所へ2度目に行った場合(伝令、野手に投手の所に行かせた場合も含む)は、投手は自動的に交代しなければならない。その場合は、他の守備位置につくことはよいが、同一イニングには、再び投手に戻れない。
 - ・ 捕手または内野手が投手の所に行ける回数は、3回以内とする。なお、特別延長戦は、2イニングに1回行

く事ができる。

捕手・野手が投手の所へ行き、そこへ監督が行けば、双方1度として数える。逆の場合も同様。

投手交代の場合に限って監督の回数には含まないが、投手交代時に捕手・野手が集まれば1度と数える。

14. 投球練習、守備練習

- ・ 投手の投球は、初回は7球とし、2回以降は3球とする。継投時も同様とする。但し、守備中の選手が交代する場合は、初回5球とする。
- ・ ブルペンでの投球練習において、監督、指導者がボールを受けることは禁止する。また、試合中は当該チーム以外のチームのブルペンでの投球練習は禁止する。
- ・ 守備位置を交替した場合の守備練習は、交代選手のみ認める。
- ・ 守備中のボール廻しは、試合時間短縮のため禁止する。

15. 試合終了後、対戦相手ベンチ前でのあいさつは、時間短縮のため行わない。

16. 試合ごとのグラウンド整備は、勝ちチームの選手が実施すること。但し、最終試合は、両チームで行うこと。

17. チーム、および、応援団は、スポーツマンシップに反する「ヤジ・発言」を慎むこと。遵守しない場合、審判は退場を命ずることがある

18. ベンチ内の監督、指導者、代表者、マネージャー、スコアラーは以下の事項を禁止し、遵守しない場合、審判は退場を命ずることがある。

「喫煙」、「携帯電話の使用」、「サングラスの着用(帽子上に掛けることを含む)」、「首タオル」、「短パン」、「草履」

19. ベンチ内で使用できるメガホンは、各チーム1個とすること。

20. 市民球場のスタンドでの、スパイク着用を禁止する。

21. 試合会場および周辺(観客席、駐車場等)において、ごみ、ペットボトル、タバコの吸殻等の放置を厳に慎み、ごみ類はすべて持ち帰るよう、団員、指導者、母集団が自覚を持って協力すること。

22. 球場内での特別規則は、大会役員と担当審判が協議して決める。

《附則》

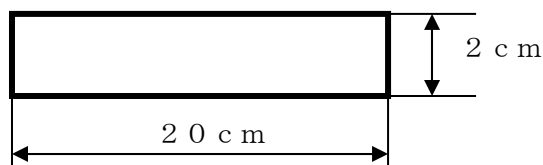
(1) 特別延長ルール

次の方法により、2イニングを限度に、特別延長ルールを適用し実施する。なお同点の場合は「抽選ルール」にて勝敗を決する。但し、決勝戦については「抽選ルール」を適用せず、勝敗が決するまで「特別延長ルール」を適用する。

- ① 先攻チームから無死・走者満塁で開始する。
- ② 打者は、「最終回終了時の次の打者」とする。
- ③ 走者は、最終回終了時、次の打者となるべき者の前の打者を一塁に、以下順次、その前の打者が2・3塁の走者となる。
- ④ より多く得点したチームを勝ちとする。特別延長ルールを適用した後、得点差が生じた回をもってゲームは終了する。

(2) 抽選ルール

- ① 「抽選カード」は、20cm×2cmのカード(下図参照)に、○印をつけたものを9枚、白紙のものを9枚、計18枚作成し、各1枚ずつ透けて見えない封筒に入れておく。



○印を付けたもの	9枚
白紙のもの	9枚
合計	18枚

- ② 抽選は、最終イニング出場の最後の守備選手(各チーム9名)で行う。
- ③ 球審は両チームの選手および監督をホームプレート前に集合させる。
- ④ 引く順番は先攻の守位1番(投手)から抽選カードのはいった封筒を引いていく。
以降 後攻の守位1番、先攻の守位2番(捕手)、後攻の守位2番、先攻の守位3番(一塁手)、後攻の守位3番、…… 先攻の守位9番(右翼手)、後攻の守位9番 という順序で引く。
- ⑤ 全員が引き終わるまで、封筒は開けないこと。
- ⑥ 全員が引き終わったら、一塁塁審は一塁側のチームの封筒を、三塁塁審は三塁側の封筒を回収し、開票する。
- ⑦ 監督はそれぞれ相手チームの開票に立ち会う。
- ⑧ ○印の多いチームを勝ちとする。